

カンボジア — プノンペン JETRO プノンペン事務所説明概要



1. 経済概況

- カンボジアの主要産業は農業でGDPの32.8%。次いで縫製業(同9.0%)、建設業(同6.0%)、観光業(同4.5%)となっている。2004年から2011年にかけてGDPは6.0%~13.3%の高成長を継続。2012年は7.0%の成長見込み。一人当たりのGDPも2001年312ドルから2011年861ドルへ急成長。イオンの調査によれば、プノンペン中心市街地から1km 商圏内の世帯収入は月800ドル以上が75%を超える。
- 輸出の大半を衣類が占め、中国から原料を輸入して米国へ製品を輸出する。国別では日本は輸出国の10位、輸入国の7位となっている。
- 外国からの直接投資が近年急増しており、4割は中国、2割が韓国。日本は最大のODA支援国であるが、投資は10位にも入っていない。

2. 日系企業進出立地

- 投資優遇措置があり、法人税は一般企業で20%免税、輸入税も免税される。また、付加価値税についても経済特区入居企業には免税措置がある。

魅力

1. 政治的安定
2. 安定したマクロ経済
3. 地理的優位性と整備されたインフラ
4. 豊富な労働力
5. 経済特区の投資優遇措置 (法人税・輸入関税・付加価値税の減免税)

課題

1. 外国資本への差別待遇なし (100%外資保有可能)
2. 割高な電力料金・不安定な電力供給
3. 熟練労働力不足
4. 行政の不透明
5. 通貨両替や国外送金の制限なし
6. LDC (後発開発途上国) 対象国により 特別特恵対象品目について無税・無枠の措置
7. インフラ

ベトナム — ホーチミン JETRO ホーチミン事務所&ホーチミン日本商工会での説明概要



1. 経済概況

- 高い経済成長を維持しており、2012年のGDPは6.3%となる見込み。
- 北部(ハノイ圏)は製造業中心で国営企業が多く、経済においても中国との関係性が高いのに対し、南部(ホーチミン圏)は最近非製造業が活発。民間企業中心でビジネスの素地は南部の方が高い。ASEAN経済圏の一角を成し、欧米との繋がりが深い。

2. 日系企業進出立地

- 今年の新規企業進出(投資額)の50%が日本企業。東急やブリジストンなど大型案件が集中。

- ベトナムの輸出入の構造は、材料を入れて国内で組み立てて輸出するのが大半。2015年にASEAN内の関税が撤廃されると貿易赤字がさらに拡大する見通しで、ベトナム政府は外資を呼び込んで自国に素材・部材産業を育て、輸入を減らしたい意向。
- 非常に若い国で市場としても魅力があり、特にホーチミンは消費性向が高く、日清食品、イオン等マーケット志向の会社の進出が目立つ。2014年にイオンが2店舗、2015年に高島屋がホーチミンに進出する。
- 通貨は米ドルとドンが併用されているが、ベトナム政府は自国通貨であるドンの流通強化を進めている。

魅力

1. 短い通勤時間
2. 優秀な労働力の確保
3. 比較的整った物流インフラ (カッタライ港、サイゴン港、カイメップ・チャーバイ港)
4. 運営ノウハウを持った日系団地の存在
5. 富裕層の増加
6. アセアン各国へのアクセスの良さ

課題

1. 素材・部材の現地調達が困難
2. 労働力不足・従業員の定着率・ストライキ対策
3. 電力不足
4. 環境対策
5. 為替変動
6. インフレ
7. 各種法改正への対応

国際交流特別委員会

ベトナム・カンボジア ビジネスミッション 2012

本所国際交流特別委員会(委員長 福永晃三 常議員)は、8月27日から4泊6日の日程で、アジア諸国の進出先として注目を集めているベトナムとカンボジアにミッション団を派遣した。福永委員長を団長に、積極的にアジアビジネス展開を図る経営者や大学・行政関係者ら21名が参加した。

今回は、工業団地・経済特区・進出企業、港湾施設、マーケット等に加え、経済統合が進むASEANの大動脈として開発が進む南部経済回廊の整備状況など、成長著しい同エリアの経済発展の実情を視察するとともに、政府機関や民間団体等との懇談を行い、両国の経済情勢や市場開拓・投資の可能性を把握することができた。



カンボジア・ジャパン ビジネススクール訪問

8/28

教育環境、外国語教育の状況、カンボジア人の生活水準、国民性などについて説明を受けた。教室では、日本語での自己紹介及び生徒との意見交換を行った。生徒からは日本や京都について熱心な質問が続き、日本語を習得しようとする生徒達の意欲を直接肌で感じることができた。



プノンペン経済特区視察

8/28

カンボジアに22カ所ある経済特区(SEZ)で最大規模であり、唯一の民間工業団地であるプノンペンSEZを訪問し、カンボジアで初となる国際標準の発電所や上下水プラントなどのインフラ、法人税、関税などの優遇制度、立地手続きのワンストップサービスなどの説明を受け、積極的に外資誘致を進めるカンボジアの投資環境について理解を深めた。



インフラ状況視察

8/30

ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムを結ぶ大動脈として、今後ASEAN地域の経済交流のメインルートとなる南部経済回廊を、プノンペンからホーチミン、そしてASEANの玄関口として国際ターミナルの整備が進むカイメップ・チャーバイ港までの400kmの間、バスで走行した。沿道において大規模に開発が進む新都市や工業団地、空港、港湾、高速道路などの整備の状況について視察した。



ベトナム進出企業訪問

8/30

ホーチミン市郊外にあるシンガポールベトナム工業団地に進出しているタカコベトナム工場を訪問し、同社のグローバル戦略やベトナム進出のきっかけ、ベトナムのメリット、デメリット、現地雇用環境労働環境などについて話を伺い、工場施設を見学した。また、アマタ工業団地のワタベウエディングベトナム工場を訪問。中国からの生産移管の状況や現地工場の雇用問題などについて状況を聞き、ウエディングドレス生産工程を視察した。